

## 【平生町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現をめざす学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築に向け、令和3年1月26日付で中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が答申された。この中で、ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念である「個別最適な学び」と、これまでも「日本型学校教育」において重視されてきた、「協働的な学び」とを一体的に充実することが示された。

このことを踏まえ、平生町では、令和2年度に整備完了した1人1台端末と通信ネットワーク等のICT環境を活用した、分かる授業の創造（授業革新）に取り組んできた。

##### (1) 個に徹した学び

近年、生成AIが急速に注目を集めるようになり、その使いやすさや生成される文章等の精度は日々向上している。そのような中、全ての児童生徒に求められる資質能力の育成を図るために、個の学びを一層充実させる必要がある。これまでの教育実践に加えて、生成AI等の先端技術を活用することも有効である。そこで本町では、来年度から中学校に生成AI・学習アシスタントアプリの導入を予定している。基礎的・基本的な学力の定着に加えて、問題解決の方法や考え方の習得等の効果を期待している。

##### (2) 空間的制約を超えた学び

文部科学省が示す当面の推奨帯域を満たす通信ネットワークの速度を確保したことにより、児童生徒がクラウドサービスを活用しながら他者と意見交換や共同編集を行うなど、協働的に学習を進める場面が増えている。児童生徒が自分の考えをアウトプットする協働的な学びの場面でICTを活用することで、確かな学力に結び付けていきたい。また、ネットワークを通じて地域・他校と接続するなど、新たな学びの機会を創出することも可能であり、多様な他者との空間的制約を超えた協働的な学びの充実をめざしていく。

##### (3) 安心・安全で一人ひとりを大切にした学び

誰一人取り残されることのない教育の実現に向け、ICTを活用した安心・安全で一人ひとりを大切にした学びを実現する。障害や疾病等により通学が困難な児童生徒には、一人一台端末を活用し、授業配信や課題配信を行うことで、学びの機会を保障していく。また、心の健康観察アプリを用いて、児童生徒の小さなSOSを発見し、早期支援につなげる取組や、いじめや不登校等、悩みを抱える児童生徒な

どに対して、1人1台端末を活用した教育相談を実施することで、安心・安全な学習環境での学びの保障の充実をめざしていく。

## 2 GIGA 第1期の総括

本町では、町立小中学校に令和元年度に132台(iPad)、令和2年度に560台(iPad)、令和3年度に8台(iPad)、合計700台の端末整備を行うとともに、大容量の通信ネットワークを整備するなど、ICT環境の充実に取り組んできた。

こうした環境を各教科の授業や総合的な学習の時間等で活用することに加え、小学校におけるプログラミング教室やデジタルアートコンテスト等の開催により、児童の情報活用能力の育成を図った。

また、教職員のICT活用指導力の向上のための取組も進めている。ICT教育支援員によるタブレット端末を活用した授業づくりの助言や、ICTに関する情報を共有するTeamsの運営の他、教職員のニーズ等に応じた教員研修を実施している。

これらの取組の成果として、令和6年度「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙調査によると、小・中学校における授業でのコンピュータやタブレット端末等のICT機器の使用頻度については、「ほぼ毎日」、「週3回以上」利用していると回答した学校の割合が小・中学校ともに全国平均を5ポイント以上、上回る結果となった。また、児童・生徒質問紙調査によると、学習の中でコンピュータやタブレット端末を活用することで「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」や「友達と協力しながら学習を進めることができる」について、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合が小・中学校ともに全国平均を5ポイント以上、上回る結果となった。児童生徒も学習活動でICTを活用することが協働的な学びを進めていく上で有効であると感じていることがわかった。

一方で、児童生徒一人ひとりに配備されたコンピュータやタブレット端末を毎日家庭へ持ち帰らせているかどうかを問う質問項目については、町内3校のうち、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」が1校、「毎日持ち帰って、時々利用させている」が1校、「時々持ち帰って、時々利用させている」が1校であることから、家庭学習の充実に向けた取組においてやや課題があると考えられる。そこで、日常的な端末活用に向けた取組を一層充実させる必要がある。児童生徒自身が普段からICTを文房具として自由な発想で活用できるようにするためには、ICT環境の整備や、授業をデザインする教員のICT活用指導力の向上に加え、児童生徒一人ひとりの情報活用能力を一層育んでいくことが求められる。特に、子どもたちが積極的にICTを活用していくことを前提とした情報モラル教育を推進していく必要がある。

## 3 1人1台端末の利活用方策

山口県が推進する「やまぐちスマートスクール構想」をふまえ、本町でもICT環境を整備し、GIGA第1期における成果を上げてきた。今後は、社会全体のDXが加速することを踏まえて、教育データやクラウド環境の活用による児童生徒一人ひとりにあった

学びの支援や校務のデジタル化を促進したい。

そのためにも、端末の整備・更新を確実にを行い、児童生徒の1人1台端末の環境を引き続き維持していくことが重要である。

#### (1) 一人ひとりに合った学びの充実のために

本町においては、令和2年3月と令和5年3月に実施した、学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果を比較すると、教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合は、小学校で16.9%、中学校で21.2%も向上している。これは、GIGA第1期において、教員のニーズに応じた教員研修の充実や好事例の共有等の取組の成果と捉えている。今後も、児童生徒の情報活用能力の育成に向けた教職員のICT活用指導力の向上や生成AIの利活用等の新たな教育活動の実施に対応できるよう、ICT研修を受講する教員数を増加させていきたい。

また、児童生徒の情報モラルの育成に向けて、県教育委員会が作成した教材「GIGAワークブックやまぐち」の活用を促している。今後も、年間指導計画に位置付けた「GIGAワークブックやまぐち」の授業実施を確実にを行い、児童生徒の情報モラルを小学校低学年段階から着実に培っていきたい。

#### (2) 空間的制約を超えた学びの充実のために

ネットワークを通じて、海外との交流や他校、地域等とのつながりの中で、協働的な学びを一体的に充実させていきたい。その学習の過程では、1人1台端末を活用して「児童生徒が自分で調べる場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「教職員と児童生徒がやりとりする場面」、「児童生徒同士がやりとりする場面」等で、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。

#### (3) 安心・安全で一人ひとりを大切にしたい学びの充実のために

平生町では、「誰一人取り残されることのない教育の推進」のために、これまでも不登校児童生徒に対する1人1台端末を活用した授業配信による学習支援等やICT機器を効果的に活用した支援を行ってきた。児童生徒の学び方が多様化する中で、今後も1人1台端末の効果的な活用方法を検討しながら、「希望する不登校児童生徒等へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の割合」を100%としたい。

また、個々の発達段階に応じて、デジタル教科書等のデジタル教材等を活用することで、「障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を町内全ての学校で実施している。今後も継続していきたい。